

■朝会講話「俳句の作り方」



10月31日～11月1日にかけて仙台で、東北地区の国語の先生方が集まる研究会があって参加してきました。その二日目に、プレッシャーバトルなどのテレビ番組で俳句の指導をしている夏井いつき先生の講演会がありました。「句会ライブ」と称して、俳句の作り方や楽しみ方についてとっていいお話を聞いてきたので紹介します。

俳句の約束事

①五音・七音・五音のリズム

○○○○○ (上五) かみご
 ○○○○○○ (中七) なかしち
 ○○○○○ (下五) しもご

俳句にはいくつかの約束事があります。まず、一つ目は、「五音・七音・五音」のリズムを基本とすることです。最初の五音を「上五」、真ん中の七音を「中七」、最後の五音を「下五」と言います。「秋の雲」なら何音ですか？ そう五音だね。では、「チューリップ」は何音？ 「チュ・ー・リ・ッ・プ」と五音とするそうです。

俳句の約束事

②季語をいれる

○○○○○ (上五) かみご
 ○○○○○○ (中七) なかしち
 ○○○○○ (下五) しもご

・上五、下五のどちらかにいれてもよい。
 ・季語は一つ。

もう一つの約束事は、季語を入れることです。季語とは、季節を表す言葉で、春・夏・秋・冬と新年を表すものがあります。大体は五音で表されていますから、上五、下五のどちらに入れてもいいと思います。ただ、入れるのは一つだけです。間違えて二つ入れてしまうと「季重なり」となり感動を伝えるピントがぶれてしまうので注意してください。

俳句の約束事

②季語をいれる

春の雲ゆつくり回る観覧車
 夏の雲ゆつくり回る観覧車
 秋の雲ゆつくり回る観覧車
 冬の雲ゆつくり回る観覧車

季語は気分も表現する。

季語は実は気分や気持ちも表現してくれます。「春の雲 ゆつくり回る観覧車」、やわらかい日差しの中でゆつくり回る観覧車は、何だかのどかな感じがするよね。「冬の雲 ゆつくり回る 観覧車」だとどうですか？どんよりとした冬曇りの空の下で回る観覧車は寂しい感じがするでしょ。このように季語は気分や気持ちを表現するものですから、俳句で表したい気持ちにぴったり合うものを選びたいですね。さっき配った季語集をよく見て選んでくださいね。

俳句のつくり

一物仕立て
 桐一葉日当たりながら落ちにけり 高浜虚子

取り合わせ
 一葉落つ借りたる古書のふところ 石川桂郎

いよいよ俳句の作り方についてのお話です。俳句の作り方には二つあります。一つは「一物仕立て」というもので、ある物を十七音で一気に詠んでしまうやり方です。画面の(虚子の)句のように桐の葉の散り方に感動をしたのなら、その様子だけに焦点を絞って俳句を詠むことです。この作り方だと説明したような句になりやすいこと、そうならなくても、平凡な内容に終始してしまうことから初心者には難しいそうです。でも、学校ではこの一物仕立てで作らせている。夏井先生からは先生たちが俳句のことを知らないからだど叱られました。

取り合わせで作ろう

五音の季語 + 季語とは関係ない十二音のフレーズ (俳句のタネ)

①必ず先に十一音のフレーズ (俳句のタネ) を見つける。
 ・今朝の朝ご飯は卵かけご飯だったなあ
 ・校長先生の話、長いなあ。
 ・算数のテスト、百点だったよ。
 ・出した指導案が真っ赤になって戻ってきた。

もう一つの作り方は「取り合わせ」というものです。作り方はというと、まず、十二音のフレーズ(俳句のタネ)を見つけます。日常の中で自分が感じたことでOKです。例えば、「今日の朝ご飯は卵かけご飯だったなあ」とか、「(今聞いている)校長先生の話、長いなあ」とか、「算数のテスト、百点だった(やったね!)"とか、先生方なら「昨日提出した指導案、真っ赤になって戻ってきた一つ」とかね。

取り合わせて作ろう

五音の季語 + 季語とは関係ない十二音のフレーズ (俳句のタネ)

②季語とは関係ない十二音のフレーズを整えて「俳句のタネ」を作る。

・今朝の朝ご飯は卵かけご飯だったなあ。

← ご飯かきこむ卵かけ

取り合わせて作ろう

五音の季語 + 季語とは関係ない十二音のフレーズ (俳句のタネ)

③俳句のタネに似合っている五音の季語を探して付ける。

・今朝の朝ご飯は卵かけご飯だったなあ。

← 新米のご飯かきこむ卵かけ

取り合わせて作ろう

五音の季語 + 季語とは関係ない十二音のフレーズ (俳句のタネ)

・算数のテスト、百点だったよ。

← 算数のテスト百点 天高し

取り合わせて作ろう

五音の季語 + 季語とは関係ない十二音のフレーズ (俳句のタネ)

・算数のテスト、十点だったよ。

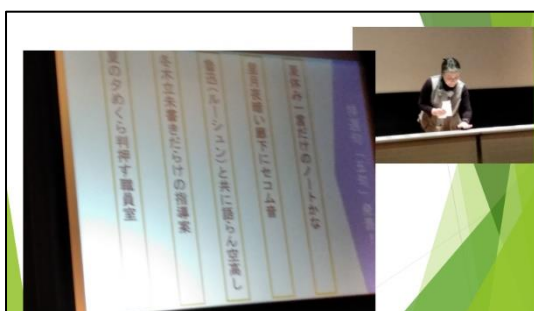
← 算数のテスト十点 秋のせみ

取り合わせて作ろう

五音の季語 + 季語とは関係ない十二音のフレーズ (俳句のタネ)

・出した指導案が真っ赤になっ
て戻ってきた。

← 冬木立 朱書きだらけの指導案



それをもとに十七音のタネを作るんです。

「今日の朝ご飯は卵かけご飯だったなあ」からだったら「ご飯かき込む卵かけ」なんてのはどうでしょう。

そしたら、あとはぴったりの季語を選んでくつつければいい。

「今朝食べたのは今年初めての新米。つやつやでおいしかった。おいしくておいしくて、ついつい、口いっぱいにかき込んだ。」ということで「新米」という季語を採用しましょう。

「新米の」にしてくつつければ完成。

「新米の ご飯かきこむ 卵かけ」
どうですか、ちゃんと俳句になったでしょ。

では、もう一つ、「算数のテスト、百点だった。」で作るよ。十七音のタネに変えてこう、「算数のテスト百点」、ほぼそのままだね。

〇〇さん、テストで百点どんな気持ちですか？ →「うれしい気持ちです」

□□さんはどうですか？ →「お母さんに見せたい(です)」

だよ。うれしくて、お母さんに見せたいくらい気持ちが晴れ晴れして気持ちがいいよね。だからこんな季語をつけました。「天高し」

「算数の テスト百点 天高し」

雲一つない高い空、百点とった晴れ晴れしい気持ち表れているよね。

逆にテスト十点だったらどうでしょう。

「算数の テスト十点 天高し」、これ変だね。

では、この季語ならどうですか。

「算数の テスト十点 秋のせみ」

たった十点だったテスト……寂しい。秋になってひとりぼっちで鳴いている蝉の音が心にしみるなあ。

では、最後の先生方の想い、「昨日提出した指導案、真っ赤になって戻ってきた一つ」はどうでしょうか。指導案というのは、先生方がみんなに勉強を教えるための計画書のようなものです。先生方がいっぱい授業を見に行くことあるでしょ。そのときに授業する先生が準備するものです。一生懸命書くんだけれど、先輩の先生方から直されるんですよ。……みんなのテストと同じだよ、赤ペンで真っ赤に直されて戻ってきたら、心の中で木枯らしが吹くような悲しい想いになっちゃうよね。

なので、この季語をつけました。

「冬木立 朱書きだらけの 指導案」

先生方みんなが同じような思いをしていますよね。さてこの句なんです。その日の句会ライブで夏井先生が選んだ特選五句の中の一つです。三百以上の中から選ばれました。夏井先生によれば、「冬木立のモトーン(白黒)と朱書きの赤の色のことも考えた句です。何より会場の先生方は全員共感できますよね。」とのことでした。実は私が作った句

です。単純なのですっかり俳句が好きになりました。楽しいので、皆さんも是非作ってみてください。